

第1回 岩木川魚がすみやすい川づくり検討委員会

日時：平成25年8月27日（火） 13:30～16:30
場所：弘前市樋の口浄水場 水道管理センター4F 会議場
委員：東 委員 委員長（弘前大学農学生命科学部 准教授）
【欠席】泉 委員（弘前大学農学生命科学部 教授）
南 委員（八戸工業高等専門学校建設環境工学科 教授）
小野 委員（岩木川漁業協同組合 組合長）
【欠席】蝦名 委員（青森県産業技術センター内水面研究所 調査研究部長）
工藤 委員（弘前市上下水道部長）
盛谷 委員（東北地方整備局青森河川国道事務所長）
山谷 委員（東北地方整備局津軽ダム工事事務所長）

～ 議事要旨 ～

①全体の課題に関して

- ・岩木川全体の環境改善を目指すのであれば、直轄区間だけに限る必要はないと思われる。
- ・統合頭首工の整備後に、三川合流の上流での水量が減少している。
- ・濁水の課題は、津軽ダムの対策が、すべて上手くいくかどうかはわからない部分もあり、津軽ダムが完成した後に、どの様に運用するかが課題である。
- ・魚の環境に関しては、ダムによる影響があるため、ダムとどう付き合うのかが大事である。
- ・何故この様な状況となったかを踏まえ、改善した機能を維持していくための将来を見据えた対策が必要である。

②弘前市上水取水堰の課題に関して

- ・弘前市上水取水堰下流の課題は、技術的にさほど難しくない。
- ・取水堰の細かい操作で対応可能であれば対応を頂く。
- ・ラバーをしまう箇所に、魚が残され滞留することが見られるが、魚の量的なものが、川全体に重要な量でなければ、優先的な順位は高くないと思われる。

③産卵床の課題に関して

- ・アユの産卵床の課題は、技術的に難しく、何かものを作ればよいという分けではなく、定期的な何かしらの管理が必要である。
- ・産卵床の対策は、簡単なものではないので、ある程度の試行錯誤とトライアルが必要である。
- ・産卵のできる環境は、新鳴瀬橋～ゴム堰の区間で揃っているが、アユが産卵するには、石がきれいでなければならない。
- ・産卵床を作るハード対策と、瀬を歩いて石をきれいにするソフト対策の両者があっても良い。

以上